三話

むがしあったけど、むがし庭の隅の方から豆選ったのせやあなあ、して、

「豆まずまずなげし種すが、えって食うが種すが」

と言ったば

「そんたらもの種せばえでねえ」

って言うけし、したらジーさま

「豆まげーる」

ってジーさま豆蒔いできたぁねえがぁ、

「一粒千粒、一粒千粒」

って豆まげだいのしゃ、なぁ、したば、そさ、猿きて

「一粒千粒のままあよー」

って猿言ったのよ、なあ

「このちきしょう猿」

とぼったども、まだ、
「一粒千粒、一粒千粒」
と蒔いでれば、まだそさきて、
「一粒千粒、一粒千粒」
とたば、
「一粒千粒のままあよー」
って猿言って、猿どご、そのジーさまぼってやったのや、その猿どご、そして今度、ジーさまなんでもなんねエ、石さ、今度でろっとあめぬったのせエ、そしていだんば、まだそさ、猿きてまだ、「一粒千粒、一粒千粒」
とたば、
「一粒千粒のままあよー」
って何回も猿言うもんだあげ、
「こんちきしょう」
と言ったば、あめぬった石、びだっとくちっでしまって、猿えごがいなぐて、猿どごつかめで、今度、
「バンバ、バンバ今きた、晩猿汁だでエ」
と言ったば、
「ああ、猿つかめできたけがー」
と言ったば、
「生ぎだ猿、つかめできた、こらー」
と言ったば、
「晩猿汁だ」

と言ったば、「でーんと」猿どご庭さ提げでおいだとジッコまだ出はって行ったのせ、したば、バーさま米搗いだなをそのバーさまどごんとだまがしてしまって、バーさま今度ばごして、したども米搗いでくれねぐって、今度、バーさまどさげで、我はバーさまの着物きて、化げで今度、バーさまどご煮でしまったのやなあ、

そしてジーさまきて、

「バーさま、バーさま猿汁煮だが」

と言ったば、

「おお、猿汁煮だ、煮だ」

と言ったば、猿、今度そご出てきて

「おっかね、バーさま、料理にしたら、しね汁だなあ」

だば

「うん、しね汁だなあ」

って言って、バーさま（猿）ではって

しねエーもどおりだや、バンバ、まちょうの皮波だあ、

と言って、猿逃げて行ったのや、バンバ、食えでしまったのやなあ。

ジーさま、殺してしまえばえがったのを生かしておいだためがバンバ食われでしまったのおなあ。

とっぴん。

※　※